

仙台三高

仙台三高PTA会報



●●目次●●

- ごあいさつ……………P 2
- PTA各研修会報告……………P 3
- 高校生活を振りかえって…P 4～5
- 三高思い出あれこれ……………P 4～5
- 前期体育大会の様子……………P 6
- 後期体育大会の様子……………P 6
- 三高祭の様子……………P 7
- 校外研修+修学旅行……………P 7
- 三学年より……………P 8 他

編集発行
宮城県仙台第三高等学校PTA事務局
〒983-0824 仙台市宮城野区鶴ヶ谷1丁目19番
TEL 022 (251) 1246 FAX 022 (251) 1247
印刷 創文印刷出版株式会社
題字 菊田奈穂 (48回生)

東北地区高等学校PTA青森大会報告

PTA副会長 加藤 智子

7月2日(木)～3日(金)に第64回東北地区高等学校PTA連合会青森大会が開催されました。今回のテーマは「ふるさとを愛し豊かな心を育むために～PTA活動とふるさと教育～」でした。青森開催という事もあり、開会行事では五所川原第一高校の津軽三味線の発表があり小さい頃から練習を重ね受け継がれているであろう、心に響く音色でもって感動しました。



研究協議では、各県からPTA会長さんの発表があり、中でも特に興味を持ったのが福島県立郡山商業高等学校の発表でした。私事ではありますが、息子が歌手のGReeeeNのファンで毎年夏に郡山までフィルムコンサートに向かう熱の入れようの彼に早くこの情報を自慢したいという事もあったからです。郡山商業高校では、震災直前に発足した「郡山グリーンプロジェクト」は、地産地消で「郡山グリーンカレー」を歌手のGReeeeNの協力も得て販売し、成功の様子がマスコミやネット上でも紹介されたそうです。しかし震災後は風評被害も合わせてプロジェクトは休止状態となったものの今年四月から再び「郡山グリーンプロジェクト」を進める運びとなり、高校生が商品開発や販売実習に参加することで町おこしも目的に文化祭で「グリーンカレー」の販売、今ではカレー屋さんやパン屋さんでも売り続けているそうでとにかく食べてみたいという気持ちでいっぱいになりました。

今回のテーマ「ふるさと教育」を通して高校を卒業しても地元愛を忘れず成長してほしいという発表に共感し、親も子も楽しみながら活動することが一番大事だと痛感しました。本部役員として初の東北大会でしたが、今回の発表や意見を参考に今後もPTA活動に参加していきたいと思いました。

宮城県高P連

仙塩支部研修会報告

11月5日(木)、仙台福祉プラザにて、平成27年度宮城県高等学校PTA連合会仙塩支部研修会が開催されました。開会行事の後、日本テレビ放送網株式会社情報カルチャー局チーフディレクターである武澤忠氏により、『生きてやろうじゃないの! ～遅しき母親と家族の絆～』という演題で記念講演がありました。次に、仙台高校、第二工業高校よりPTA活動について話題提供していただき、研究協議が行われました。仙塩地区より多数の会員の参加があり、充実した研修会となりました。



初めの研修旅行という事で研修委員一同とても不安でいっぱいでしたが、「大人の遠足」としてとても有意義だったとお言葉をいただき、実施して良かったと胸をなで下ろしております。最後にになりましたが、多くの保護者の皆様にご参加いただき感謝いたします。また次年度以降も研修旅行が計画されます。ぜひ多くの皆様のご参加をお願い申し上げます。



みやぎ高校PTAフェスティバル2015に参加して

PTA監事 窪田 深香

10月15日、由楽楽ホールにおいて、みやぎ高校PTAフェスティバル2015が開催されました。

開会セレモニーの後、東北放送の石川太郎氏による「生き抜く力の源泉」と題した記念講演がありました。テレビでよく拝見する方だったので、親しみをもって聞くことができました。

未来を担う子どもたちにとって、東日本大震災から今日までに経験してきたことが将来必ずや力になるであろうことを、ご自身の生い立ちや高校時代の体験を交えながら、楽しく分かりやすくお話してくださいました。

昼食・休憩をはさみ、午後からは、各支部から5校によるPTA活動の発表がありました。

石巻西高校では、震災以降、防災教育に力を入れ、県民の森に隣接する泉松陵高校では、地形を生かしたマラソン大会が行われています。白石工業高校では、工業高校という特色を生かしグッズ製作を、涌谷高校では、大正8年開校という歴史から、ふるさとに根ざしたボランティア活動が盛んです。また、一迫高校からは、伝統的な太鼓を叩きながら踊る迫力満点の「早川流清水目八ツ鹿踊」が披露されました。

同じ宮城県内でも、それぞれ地域の特性を生かして工夫された活動内容に、私たちPTAはサポート役として何ができるのか改めて考え、子どもたちの成長を見守っていききたいと思います。

研修旅行に参加して

研修委員長 砂田和香子

十月三日南三陸・登米方面への初めての研修旅行を実施いたしました。今回の旅行の目的は、会員の見聞を広げ、相互の交流と情報交換によって親睦を深める事でした。

初めての旅行という事で何回か委員会を開き、本郷会長にも同席いただき議論を重ねました。最終的に南三陸方面で震災講話を聞き、登米みやぎの明治村にて歴史に触れるコースに決定いたしました。

当日は天候にもめぐまれ、総勢四十三名で出発いたしました。ホテル観洋ではスクリーン映像を使って職員の方から講話をいただきました。東日本震災発生からホテルスタッフや地元住民の方々が、共に歩んできた様子が分かりました。

まだまだ復興途中ですが、新しい地域づくりに尽力している姿には心から感動いたしました。さらにこの震災を風化させないためにも、ぜひ皆さんにも南三陸を訪れていただきたいと思えました。さんざん商店街では、地元の方々の頑張る姿を目の当たりにし、楽しく買い物出来ました。登米のみやぎの明治村にて、教育資料館や水沢県庁記念館など歴史的建造物を各々自由に見学し、明治時代のロマンを感じました。

初めての研修旅行という事で研修委員一同とても不安でいっぱいでしたが、「大人の遠足」としてとても有意義だったとお言葉をいただき、実施して良かったと胸をなで下ろしております。最後にになりましたが、多くの保護者の皆様にご参加いただき感謝いたします。また次年度以降も研修旅行が計画されます。ぜひ多くの皆様のご参加をお願い申し上げます。

自由・格差・共生

会長 本郷隆盛



いま、三年生は、大学受験の真っ最中である。子供供の受験は、本人のみならず、その家族にとっても一大事である。それは第三次産業が支配的な社会においては、より高度の学識と人とのコミュニケーション能力が要求され、またそれを身に付けることで、自分の未来をより確かなものにしていくことが出来るからである。公平な社会とは、人がその努力によって社会的名誉や経済的利益など社会的な価値を享受することが出来る社会であるからである。だが今そのような原則が危殆に瀕する事象が生じていることに注意したい。

いま、私たちの社会が歴史的に手にしている最大の価値は「自由」である。「生まれ」や「身分」を社会構成の原理とした近代以前の社会に対して、個人が自分の利益の最大化を目指して「自由」な競争をするのが、歴史社会を進歩させ人類の発展を促す原動力であるとの考え方は、近代資本主義社会の基本原則である。スポーツや芸術など様々な分野で、多くの若者たちが潜在的な能力を開花させ、国内のみならず世界に向けてその存在を誇示していることは喜ばしいことである。だが、いまやそのような自由競争の結果、社会的名誉や経済的な収入に大きな格差が生み出されているだけではなく、その「格差」が階層間で固定されつつ

第五十一回生の卒業を祝して

校長 氏家 仁



第五十一回生がこの度三十二年の業を終え卒業を迎えています。保護者の皆様にお慶びとお祝いを申し上げますと共に、これまで三十二間の本校教育活動に厚くお礼申し上げます。また、一昨年度の五十周年記念事業の実施に当りましては、PTA、教育振興会、尚志会による実行委員会総掛かりの御支援に改めて感謝申し上げます。

第五十一回生が卒業するにあたり、本校の歴史を振り返ると、創立以来の歩みは決して平坦な道ではなかった。戦時体制下の教育、戦後の復興、そして高度経済成長期の教育。時代は大きく変わりましたが、本校の教育の根幹は変わらなず、生徒の成長を第一とし、個性を伸ばすことに努めてきた。卒業生の中には、社会で活躍している者、起業している者、そして社会に貢献している者が多くいる。彼らは、本校で培った知識とスキルを、社会で活かしている。これは、本校の教育の成果である。卒業生は、社会で活躍している者、起業している者、そして社会に貢献している者が多くいる。彼らは、本校で培った知識とスキルを、社会で活かしている。これは、本校の教育の成果である。

あるからである。経済のグローバル化は、国際競争を激化させその結果、主要な製造業が海外に工場を移転した結果、国内経済の空洞化を招き、大企業のパイプリー、終身雇用など不安定な派遣労働、パート化が激増した。いま若者の四割が非正規雇用となり、結婚もできず年金生活をする親に寄生する高齢世代では年金だけでは生活できない。下流老人が生まれ、母子家庭を中心にして子供が医療を受けられず、家で食事もできない子供たちが激増している。「自由競争」の負の側面が、社会的に顕在化してきたのである。

あるというのであれば、自由競争の結果生まれた生活条件の「格差」や「不公正」を絶えず人為的に是正することが必要である。経済格差の深化によって夢や希望を実現するチャンス奪われた若者たちの怒りの矛先が、無差別殺人など社会秩序全体の破壊に向かわないようにすることが肝要である。そのためには「競争」や「格差」が「社会的公正」と矛盾せず「合理的」なものであるとの社会的な合意が不可欠であり、階層間の流動性を維持、確保することが、階層間の安定を維持する上で必須の条件にならう。階層間格差は、いまや世界的な問題であり日本はそのモデルを構築する必要がある。

世に出ず第一歩のスタートとなり、我が子の成長を見守っていたら、我が子に就いていただき学校の取組も温かく見守っていただいていたかと思えます。五十一回生は高校入試の大きな転換点にあたり、一期生でした。入試一年の終わりに、東日本大震災に遭遇し、本日に新たな入試制度での入学試験になるのか、高校卒業後進路はどうなるのだろうか心配したかと思えます。生徒達は大変緊張し平成二十五年四月八日に入学を遂げ、被災地と大きく成長しましたこと、保護者の皆様にも感慨一入のこの御推察申し上げます。卒業生の中には、社会で活躍している者、起業している者、そして社会に貢献している者が多くいる。彼らは、本校で培った知識とスキルを、社会で活かしている。これは、本校の教育の成果である。

卒業を祝して

教育振興会会長 和田 明美



第五十一回生のお子さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様には、お子様が立派に成長され、今日の目を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。卒業生の皆様、高校生活の様々な事によく頑張りましたね。楽しかった事、嬉しかった事、辛かった事、苦しかった事、体験した全ての事が、今の皆さんへと成長させてくれ、これからの人生の中で必ず役に立つ事でしょう。もしも、これからの人生の中で、大きな困難に立ち向かわなければならなくなった時には、目の前の事を一つ一つこなして行く事で、いつの日か必ずその困難を乗り越え成長できるのだと思っておいて下さい。必ず果敢に立ち向かって行って下さい。遠くからではありますが、いつでもどんな時でも応援しております。

卒業生の保護者の皆様は、お子様が生まれてから今日まで、沢山の愛情を注ぎ、共に笑い共に泣き、また、育児に悩み葛藤されてこられた事と思います。子育て四訓(山口県に住む教育者の方が長年の教育経験をもとめたもの)「乳児はしっかりと肌を離さず、幼児は肌を離せず、少年は手を離さず、成人を離さず、青年は目を離さず」という名言があります。親として今は、「少

年手を離せず、青年は目を離さず、成人を離さず」の時期でしょうか。子供が成長して行く中で手を離さなければならぬ時期。自身の未来へ向かって頑張っている姿をいつどんな時でも見守り支え、ありのままの我が子の全てをいつどんな時でも温かく支え迎え入れてあげられる親でありたいものです。

み、その成果は枚挙に暇なしという欣喜雀躍たる活躍でした。将来にわたって成長が楽しみな若人になって、本日ご家庭にお返し、世に送り出すことができ、教職員一同ほっと胸をなで下ろしているところです。生徒の皆さんは本校の〇〇周年を支える皆さんです。同級生、同窓生、同窓生等との絆をしっかりと心に残し、青年の成長期にこそ、人生の基盤をしっかりとつくった時期を、数年後に後生にのみじみと思いをいたすことができれば幸いです。最後になりましたが、卒業生がこれからの課題に挑戦し歩まれることを期待します。と同時に、保護者の皆様の御健勝を御祈念申し上げます。これからも本校に温かい御声援御支援を賜りますようお願い申し上げます。

3年2組



3年2組は部長の率が高く、陸上部、ラグビー部、剣道部、生物部、写真部、将棋部、書道部、さらには代議員会議長もいます。勉強と部活の両立も大変なところ、理数科のSSHメニューは忙しかつたですが、とてもいい経験になりました。体育大会では男子バレーボール、女子二人三脚リレーなどで優勝し、行事にも燃えました。

2組 和田 ゆい

3年4組

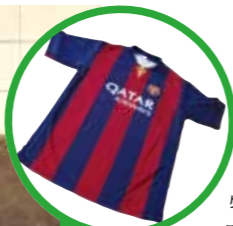


ピピッピー…虚しい笛と共に僕の高校サッカーが終わった。私は文武両道に努め続けた。部活では毎朝自主練、勉強では毎日2時間勉強していた。しかし、私はまだ満足しない。3年間を見つめ私に足りないものは努力の質だとわかった。努力の質を上げ、大学で結果を残したい。

ピー…この3年間を胸に新たな挑戦の笛が鳴る。

4組 尾形 駿

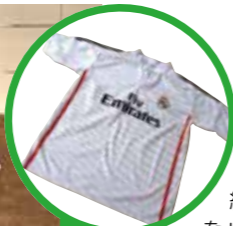
3年6組



厳しい歌唱指導に涙を流した日から、3年。荒波に揉まれながら歩んできましたが、そうして鍛えあげられた団結力は伊達なものではありません。特に私たち6組は、文化祭で受賞したり、体育祭で総合優勝を果たしたりと、かけがえのない時間を共に過ごすことができました。胸に刻まれた三高魂で、この先も荒波に立ち向かいます。

6組 内構 文菜

3年8組



私たち3年8組は、昨年から全くクラス替えのなかった学級だった。球技大会、三高祭、体育祭、どの行事も変わらぬ顔ぶれで2回ずつ。隣に座る級友の趣味も性格も分からないところから始まり、少しずつ、連帯感が生まれていくのが目に見えた。この2年に勝る思い出は中々できない。

8組 遠藤 柚奈

高校生活を振り返りがえって

3年1組



ついでこの間入学したように感じる高校生活も、いつの間にか残り僅かとなりました。仙台三高での3年間は密でした。特に3-1にはとても個性的な人がぎょうさんいました。が不思議と調和しており、1人1人の持ち味が生きていてまるで、噛めば噛む程味のでるスルメのようなクラスだなあと思っていました。十年後に会いたいです。

1組 常松 愛加

3年3組



振り返ってみると、この3年間は本当にあっという間に過ぎていってしまっただと思われれます。その中で自分は「三高生」らしいとされる充実した生活を送れたのか、疑問が残る点もあります。それでも今は、様々な面で支えてくれた友人や先生方へ心より感謝を申し上げます。ありがとうございます。

3組 千葉 寿晃

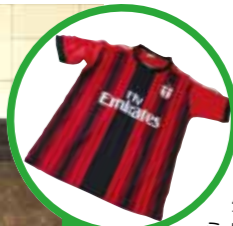
3年5組



高校生活は様々なことに力を注いできました。特に最後の学校行事では、皆が一生涯懸命になって競技に取り組んだり応援したりと、クラスの団結力がより強くなったと感じました。それが前期2桁という順位から総合2位という結果につながったと思います。最後にクラスでいい思い出を残すことができました。

5組 種市 彩織

3年7組



3年前の春に入学してから、部活動の練習、勉強など、やることは毎日山積みで、辛いことや苦しいこともあった。しかし、素晴らしい仲間たちと先生方に出会い、家族に支えられ、仲間たちと励まし合い、高め合ってきたこの日々は一生の宝物になると実感している。これからもこの日々の中で学んだことを活かして生きていきたい。

7組 河野 皓



えています。

私が高校一年生の頃、現在の南校舎と校舎前のグラウンドの敷地では「ハンドボール部」、「サッカー部」、「野球部」、「ラグビー部」、「陸上部」がひしめくように活動していました。所属していたラグビー部は、現在のグラウンド南側の砂場からウコン桜がある辺りまで、野球部とサッカー部に挟まれており、毎日が場所の取り合いでした。そんな状態での部活動だったので、二年生の時、三十周年記念事業の一環として第二グラウンドをもらったときは本当に嬉しかったです。グラウンド開きした当時は、練習前に石拾いをするとすぐにバケツ一杯になり、水は今は今よりも悪く、グラウンドには電灯も無い状態でしたが、専用グラウンドとして使えることの幸せをかみしめながら活動していました。この出来事のみならず、生徒の立場から見ても学校内外の方々からの後押しを強く感じながら過ごした高校生活でした。

さて、母校に赴任し十年目が過ぎようとしています。仙台三高は、地域の方々、同窓生、保護者の皆様、その他様々な関係者の皆様から常に応援して頂いており、さらに本校に対する期待は年々高まっています。私は仙台三高の一員としての十三年間で受けた皆様からの応援や期待を、「周りの人たちに感謝をする気持ちの大切さ」という形にして、次代を担う生徒たちに伝えていきたいと思います。

仙台三高教諭
清原 和
(30回生)

三高思い出
あれこれ



三高祭

8 / 28 (金) ~ 29 (土)

藍山猿よ、
ペンを置き、拳を上げよー
三高祭実行委員長 市居 理沙
今年文化祭はこのタイトルでもあるスローガンを決めるところから始まりました。このスローガンには、「藍」という漢字に去年よりもさらに良いものを創りあげる、という意味を込めています。また、サブタイトルには、いつもは勉強熱心な三高生も文化祭くらいはペンを放り出して盛り上がってほしいという思いを込めました。
今年三年目にして初めての雨に見舞われ、体育館で二日目の決勝戦や有志を行いました。また音響の不具合が多かった等、思いがけず起きたことが多々ありました。ですが、例年以上の盛り上がりを見せたクラスパフォーマンスやサブライズで千葉雄大さんとヒヤダイソンさんが来て下さった中夜祭などそれを上回る嬉しいことも多々ありました。
今回の文化祭は三年生にとつて最後の文化祭でもあり、私にとっては集大成でもありました。至らない所が多い私を全面的に支えてくれたのは先生と実行委員の皆さんでした。来年もこのような良い伝統を引き継いでいってほしいと思います。そしてご尽力いただいた全ての方々に感謝申し上げます。

校外研修(1学年) + 修学旅行(2学年)

第1学年校外研修 (10 / 19・月曜日)

主な行き先	行程
1組 松島方面	奥松島(刺し網漁)→キリンピアポート(昼食)→うみの杜水族館
2組 山形方面	上山チェリーランド(ラフランス狩り)→焼き肉くろぬま→山寺・作並
3組 山形方面	リナワールド(体験学習含む)→ピザ(体験学習)
4組 山形方面	上山チェリーランド(ブドウ狩り)→昼食(各自)→リナワールド
5組 仙台方面	うみの杜水族館→杜のアグリエ(昼食)→みちのく杜の湖畔公園
6組 仙台方面	八木山ベニエーランド→キリンピアポート(昼食)→うみの杜水族館
7組 福島方面	耶麻郡北塩原村(菅原湖)→バーベキュー
8組 仙台方面	うみの杜水族館→杜の市場(昼食)→コロナワールド



団結深まりました♡

第2学年 修学旅行 (12 / 3・木曜日、4・金曜日)

	行程
1日目	仙台駅新幹線出発 — 上野着 — クラス別研修 (スカイツリー、アメ横、浅草周辺) — 大学体感プログラム — ホテル着 東京大学構内見学 ・クラス写真撮影 ・夕食 ・OBによる講演 ・入浴・就寝
2日目	朝食・移動開始 — 班別研修 — 上野駅集合・出発 — 仙台駅着 ・東京近郊 ・大学研究室・企業など



来年の私たち



前期体育大会

2015.7. 17(金)・21(火)

～種目～

- ・バレーボール・サッカー・ドッジボール
- ・バスケットボール・ソフトボール



総合優勝 3-6

後期体育大会

2015.10. 15(木)

～種目～

- ・100m 400m1000m 1500m 100mH
- ・リレー・二人三脚リレー・走り高跳び・走り幅跳び
- ・砲丸投げ・メディスンボール投げ・綱引き
- ・長縄跳び・部対抗リレー・女子ダンス



卒業をむかえるにあたって 三年間の思い出

「卒業を迎えるにむかえて」

第三学年委員長 千田 陽子



卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。三年前、入試制度が変更になる中、少し不安な気持ちでの高校入試でしたね。見事、仙台三高に合格して嬉しそうに校門をくぐったのがこの間の事のようです。あつという間の三年間で、勉強に部活動に充実した生活を送りながら、身も心も大きく成長出来た三年間だったのではないのでしょうか。無事、卒業の日を迎え新たな一歩を踏み出して行く事になりますが、この先、離れて生活する事になっても、どんなに年齢を重ねても、自立し立派な社会人になろうとも私達にとっては、いつまでも可愛い、可愛い子供です。どんな時も力になります。いつでも見守っています。どうぞその事を忘れないで下さい。そして力強く自分の人生を歩んで行って下さい。

三年間の学生生活で、子供達がこんなにも逞しく成長出来たのもひとえに、仙台三高に携わる全職員の皆様のおかげです。また、通学を温かく見守って下さいました、地域の皆様のおかげと思っております。先生方におかれましては、勉強に部活動にとご自身の知識や経験をもとに、子供達へ多大なる指導をいただき誠にありがとうございます。保護者を代表いたしましてお礼申し上げます。卒業後も、先生方を頼る事、まだまだあるかと思いますが、その際はどうぞよろしくお願いいたします。

子供達の卒業を祝って下さいます全ての方々へ感謝申し上げます。最後に私事ですが、役員の活動を通して、良き仲間に出会い楽しい思い出がたくさん出来ました。支えて下さった学年委員の皆様、誠にありがとうございました。

「卒業おめでとう」

第三学年主任 秋葉 行



51回生ならびに保護者の皆さま、ご卒業おめでとうございます。また、三年間の教育活動に対する皆さまの温かいご支援に、学年団一同、本紙面をお借りし、心より御礼申し上げます。

さて、51回生は、仙台三高での三年間を今どのように振り返っていることでしょうか。その三年間に継続された努力、挑戦は紛れもない財産であり、これからの人生の礎となるに違いありません。幼い様子で入学してきた当初と比べ、揺るぎない逞しさを纏った現在の成長ぶりを見ても、生徒諸君が過ごして来た日々が想起されます。学習、部活、行事にと、あらゆる面でひたむきに毎日を通す姿は、先輩から引き継ぎ、後輩へと繋がる伝統という響きの中で、51回生も見事にその大役を果たし、更に重みを増して後輩へと響き渡してくれました。

「玉啄かざれば器と成らず。人学はざれば道を知らず。」という言葉が示すように、人生は学びの連続です。これからの人生も、さらなる艱難に向き合っていくかなければなりません。それでも自ら学び、道を見つけ、時には友人たちの助けをかりて乗り越えていける力を身につけているはず。51回生の、これからの一層の活躍と飛躍を祈念し、またひとまわり大きくなって、元氣な姿を見せてくれることを期待しております。

平成27年度尚志会表彰

功績賞 (2名)

- 高橋奈津子 26年度インターハイ・国体出場・日本ユース七位入賞
- 宮崎 古都 27年度インターハイ出場

功労賞 (46名)

- 細川 魁 増田 和也 佐藤 七瀬 菊地 雄大 菊池すみれ 常松 愛加 遠藤 柚奈
- 大友 宣毅 尾崎 滉太 片桐 良 佐藤 藍瑠 三瓶 遥 堀川 貴広
- 樋口 徹人 伊藤 岳辰 柿崎 泰広 木下 隼希 齊藤 響子
- 高木 紫野 安達 稜詠 高橋 蓮 伊藤 空翔 佐藤 利乃 田中さくら 伊東 由貴
- 山本恵理加 種市 彩織 千葉 佐藤 雪音 菅野 太平 松崎 新汰 菊池 真広 二階堂 蒼

平成27年度皆勤賞受賞者

3年間皆勤 (52名)

- | | | | | | | | |
|-------|------|-------|------|------|------|-------|------|
| 8組 | 7組 | 6組 | 5組 | 4組 | 3組 | 2組 | 1組 |
| 芳賀里佳子 | 金野朋恵 | 羽根田真 | 齋藤耕平 | 木下隼希 | 金須晃平 | 二階堂清香 | 宮下奈央 |
| 平山俊将 | 中野友輔 | 鈴木健太 | 内構文菜 | 増田和也 | 千葉隼希 | 熊谷風希 | 片倉健太 |
| 佐藤雪音 | 木村百花 | 菊地佳織 | 菅原亜季 | 佐藤里帆 | 持村和樹 | 長嶋朋陸 | 小林英史 |
| 倉藤祐嗣 | 遠藤幹太 | 原魁星 | 橋口裕孝 | 中村優一 | 千葉俊哉 | 高橋和也 | 佐竹晃輔 |
| 小野俊平 | 小倉宣毅 | 白友公瑛 | 和田ゆい | 菅野太 | 伊藤竜也 | 吉川洗樹 | 樋口徹人 |
| 千田健太郎 | 古村翼 | 今江颯一郎 | | | | | |

編集後記

無事、PTA会報は届きましたでしょうか？編集にたずさわりながら行事を感じる事が出来、幸せでした。

今回の会報に大変お忙しいところ原稿を寄せていただきました皆様へ、この場をお借りして心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

広報委員

- 三年 増野 弘子 持田 日和
- 谷 政子 相澤美智子
- 二年 畠山久美子 近江 桂子
- 菅井 淳子 関 利恵子
- 齋藤 和子 木暮美智子
- 石垣 広子 伊藤 香織
- 中里佐智代
- 一年 慶長 章雄 佐藤 康倫
- 石川利恵子

